

○ 本校の概要

通常学級11、特別支援学級4で、全児童数は295名である。池上線蓮沼駅、多摩川線矢口渡駅から徒歩圏であり、周りには本校名のバス停が3か所ある。区内のどこへ行くにも便利な場所にある。学区は商店や工場もあるが、大半は静かな住宅地である。学区が狭く、小規模校ゆえに児童は日頃から学級、学年の枠を超えて仲良く遊んだり活動したりする姿が見られる。特別活動では、縦割りの良さを生かした活動が年間を通して行われている。教職員はほぼすべての児童の名前と顔が分かるので、学習指導、生活指導において一致した指導が進められている。確かな学力を育成するために、各学年、外部機関と連携した体験的な学習を実施し、

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4:「学習することが楽しいですか」の問いに、「楽しい」と回答した子どもの割合が90%以上。	2	・今年度より主体的・対話的で深い学びの実現に向け校内研究に取り組み始めた。「学習することに楽しい。」と肯定的に「はい」と回答する児童は76.7%(前年比+1.7ポイント)であり、「どちらかといえばはい」と回答した児童27.1%(+8.4ポイント)と合わせて、前年比+9.1ポイントの児童が、学習する楽しさを肯定的に捉えることができた。さらに研修を深め、授業改善による分りやすく身に付く授業を実施するだけでなく、家庭との連携を図り、家庭学習のさらなる充実で学力向上に努めたい。 ・学習規律「矢東スタンダード」を継続し徹底させ、保護者や地域から安心・信頼される学校づくりを目指していく。	・学習することが楽しいのはよいことですが、様々な「楽しい」ことがある時代です。遊びも学習かもしれないませんが、学校が楽しければ居場所があれば良いのではないのでしょうか。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対家児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。	3:「学習することが楽しいですか」の問いに、「楽しい」と回答した子どもの割合が80%以上。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	2:「学習することが楽しいですか」の問いに、「楽しい」と回答した子どもの割合が70%以上。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	1:「学習することが楽しいですか」の問いに、「楽しい」と回答した子どもの割合が70%未満。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が90%以上。	4	・メンタルヘルスチェック、校内でのいじめ防止対策、問題行動・不登校問題、特別支援教育に関する課題も、組織的に取り組んでいる。「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と肯定的評価(「はい」「どちらかといえばはい」)の合計が、93.8%(+0.8ポイント)であった。日々のあいさつを充実させるために、地域やPTAとのあいさつ運動、校内のあいさつ指導に力を入れ、進んであいさつができる児童の育成に努めたい。	・1・2年生は入学時と比べるとそれなりに成長してきたと思う。しかしながら、発表するときやあいさつをする時の声の大きさが気になった。大きな声を出すことができるように、学校と家庭と地域が協力する必要がある。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が80%以上。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が70%以上。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が70%未満。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が90%以上	4	・「進んで外遊びをする。」と、肯定的評価が、91.1%(+3.1ポイント)であり、大幅に外遊びを行う児童が増えた。外遊び・体力づくりを励行させるために、なわとびやマラソンタイムの実施、体力づくりカードの活用等を行うとともに、体育指導補助員を有効に活用し、体力向上を図る。 ・一学級一取組において、各学級で取り組むものの、内容面で一層の充実を図る必要がある。区や都の体育部の研究授業や研修への参加、校内での実技研修を積極的に実施し、教員の指導力向上を図る。	休み時間は、寒いにもかかわらず、外遊びによく児童が出ていた。昨年度より外遊びが増えたことは先生方が頑張ったからだと思う。引き続き指導をお願いする。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が80%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が70%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が70%未満			
		体力向上へ向けた、一学級一実践を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が90%以上	4	・保護者アンケートの「授業を評価する。」の質問に対し、肯定的評価92%(+4ポイント)であったが学校公開時は、年間を通じ平均90%以上の肯定的評価を得ることができた。 ・保護者の授業内容に対する信頼を高めるとともに、教職員の自己研鑽のためにも授業力向上を図っていく。また、ICT機器を活用し、児童が主体的に学習活動を行える環境をさらに進めていく。 ・特別支援学級や特別支援教室の教育活動を充実させるために、特別支援教育コーディネーターが巡回指導員、特別教室専門員、巡回心理士、教育センター等の関係者と連携し、対象児童に対するよりよい学習環境を整備する。	・廊下は常に清潔感が溢れきれいである。各学級の掲示物がきれいに貼られていた。学習環境が整い、授業においても、先生方が工夫し、分かりやすい授業を行っていた。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が80%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が70%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:全教員が月1回以上活用した。 3:80%以上の教員が月1回以上活用した。 2:60%以上の教員が月1回以上活用した。 1:60%未満であった。				
		校内委員会等を実行し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	1:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が70%未満			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりたい。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が90%以上	4	・「教育活動の公開度」に関する質問では、肯定的評価が、96.0%(+1.0ポイント)であった。HPの学校ブログと学校給食ブログを定期的に更新したことで、本校保護者のみならず、就学予定児童の家庭や地域からも高く評価されており、開かれた学校づくりの一翼を担うことができた。 ・校内環境美化活動については、「はい。」という回答が81%(±0ポイント)を越え、95%が肯定的に評価している。美化ボランティアや図書ボランティア、学校支援本部と連携し、校内美化に努めたい。	・HPで学校の様子を数多く更新している点は評価できる。 ・学校支援本部の組織がしっかりとされており、土曜スクールやサマースクールの講座が充実している。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が80%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が70%以上			
				1:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が70%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。